奨学金スタート！

3年間で、

総額100万円（返済不要）



2026年度新入生対象
「地域みらい留学」奨学金制度スタート
学びのかたちを一緒に作り、
一緒に見守っていく仲間になりませんか

「地域みらい留学奨学金」制度を創設

■制度概要

中学生が地方の公立高校に道府県外から進学する「地域みらい留学」を経済的に支援するため、2025年6月に新たな給付型奨学金制度を創設いたしました。

■背景と成果

地域みらい留学は、累計4千人を超える中学生が参加するプログラムに成長しました。また、2025年度には過去最多の169校が参画しており、都市部の中学生が地方で豊かな学びを経験する機会として定着しています。

■制度の意義

一方で、経済的理由で地方での学びを諦めざるを得ない中学生がいます。本制度を通してそうした中学生とその家庭への支援を通じて、都市部と地方の教育格差解消と多様な学習機会の提供を目指しています。本制度により、より多くの子どもたちが「新しい学びを選択する」機会を得られることを期待しています。

留学の概算費用



「地域みらい留学」では、生徒の生活費として3年間でおよそ200万円の費用が必要です。

海外留学や一部の私立高校と比べて教育費は抑えられているものの、家庭の経済状況によっては進学のハードルが高くなることもあります。

「地域みらい留学」をご希望の方

地域みらい留学生 募集中！

■支援内容

[支給総額] 1人あたり**100万円（3年間・返済不要）**
[支給内訳] 1年次40万円 / 2・3年次各30万円
[対 象 者] 2026年3月中学校卒業予定で、居住地以外の都道府県の地方公立高校への進学希望者
[採用予定] 約30名
[募集期間] 2025年6月22日〜8月31日

ご支援を希望される方へ

マンスリーサポート

マンスリーサポーターとして継続的に決まった額を寄付いただく方法です。寄付金額は1ヶ月1,000円（年間12,000円）から自由に設定いただけます。継続寄付の停止、停止後の再開はいつでも可能です。

月々 **2,000円**
年間24,000円で生徒1人・約1ヶ月分の支援

ふるさと納税

地域・教育魅力化プラットフォームが事務所を設置している佐賀県のふるさと納税に、弊財団を指定してご寄付いただくことで、地域みらい留学をはじめとした活動全般をご支援いただけます。（返礼品あり／返礼品なし）

30,000円
生徒1人・約1ヶ月分の支援

■応援いただいた方には

- メールマガジンと活動報告書をお届けします
- 年1回開催する活動報告会・地域みらい留学生との交流会にご招待します

■支援の申込み方法

右記の二次元バーコードより「寄付募集サイト」からお申込みください。

※クレジットカード（VISA / Master / JCB / American Express / Diners Club）による毎月自動引き落としとなります。

寄付の使い道

皆さまからのご寄付は地域みらい留学奨学金として地域みらい留学生をサポートするほか、地域みらい留学をはじめとする地域・教育魅力化プラットフォームの活動全般に活用いたします。

寄付型自販機設置

「地域みらい留学応援自動販売機」を設置いただくと、売上金額の一部が弊財団への寄付となります。2025年4月時点で、全国に42台設置（高校・民間企業・公共施設）いただいています。

手続きの詳細については、弊財団へ直接ご相談ください。

地域・教育魅力化プラットフォーム
Platform for Sustainable Education and Community

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
〒690-0842 島根県 松江市 東本町二丁目25-6 みらいBASE2階
TEL: 0852-61-8866　FAX: 0852-61-8867
MAIL: info@c-platform.or.jp
HP: https://c-platform.or.jp/
[佐賀事務所] 〒840-0842 佐賀県佐賀市多布施4丁目1-15

X
ホームページ
Facebook

Edu

活動報告書 ANNUAL REPORT 2024 - 2025

地域・教育魅力化プラットフォーム
Platform for Sustainable Education and Community



1000人の高校生の物語が全国の地域に広がる

～ 7年目の地域みらい留学 ～

都市部の高校生が地方の高校で学ぶ、新しい教育の選択肢

中高一貫やめて岩手へ、アーチェリーの夢を追いかけて



湯浅（ゆあさ） 皓埜（こうや）（神奈川県出身）
岩手県立住田高等学校 2年生







中高一貫校をやめて、親元を離れることに不安はありました。でも「やってみたい」を諦めて後悔したくない。本物の自然を感じたい、アーチェリーをやってみたいという気持ちが背中を押してくれました。

最初は戸惑いの連続。風邪をひいた時の対処法も分からず、服をたたむのも難しくて。でも、地域の「大好き大使」として町の魅力を伝える機会をいただき、新聞に載ったり名刺をもらったり。自分もこの町の一員だと実感できました。

探究の授業では、住田町を自分の言葉で発信。人に伝える楽しさを知り、将来は広報の分野を目指したいと思うように。大人と関わる中で感謝の気持ちが芽生え、客観的に考える力も育ちました。

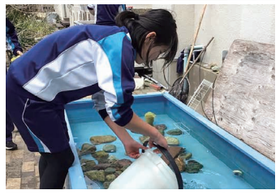
今では後輩の相談相手にもなれて、家族と離れた暮らしは中学時代に描いた理想を超えました。この経験が自立への第一歩につながっている、そう感じています。

『おにぎり食べる？』の声かけと108人の仲間が育んでくれる私らしさ



堀切（ほりきり） 紬生（つむぎ）（埼玉県出身）
愛媛県立長浜高等学校 2年生







中学時代、やりたいことが見つからず高校選びに迷っていました。母が「地域みらい留学があるよ」と教えてくれて、埼玉から愛媛県立長浜高校に進学しました。友達を一から作る不安もありましたが、それ以上にワクワク感が強かったです。

長浜町で一番驚いたのは人の温かさ。近所の方が「おにぎり食べる？」と声をかけてくれたり、長高食堂では地域の方が夜ごはんを作ってくれます。

水族館部では108人の仲間と様々な経験を積み、人前で話す力が身につきました。受け入れてくれる先生、仲間、地域の人たちのおかげで、自分らしく成長できる環境だと感じています。

中学の頃は「なんとなく法学部」でしたが、今は教育学部で学んで先生になりたいと思っています。地域みらい留学で得たのは、かけがえのない人とのつながりと自分で考え行動する力です。

出会いが、地域と若者を変えていく。

2024年度に地域みらい留学に参画した福島県立川俣高等学校では、
地域を巻き込んだ学校づくりが始まっています。

地域住民との対話から生まれた変化

2024年12月に開催した「川俣の未来を考える会」では、30～40代の地域住民ら約20名が参加。「こういう機会を待っていた」という声が多く聞かれ、学校運営協議会の活性化につながりました。

新しい協議会は女性比率54%、子育て世代中心のメンバーによる活発な議論が始まっています。

生徒の言葉の方が町の人は一生懸命動いてくれる

2024年発足した「川高魅力伝え隊」は正式な部活動となり、生徒たち自身の言葉で地域の魅力を発信しています。「校長が説明するより、生徒の言葉の方が町の人は一生懸命動いてくれる」と加藤校長。

生徒の言葉が地域を動かし、地域の思いが学校を変える。川俣高校ではそんな新しい教育のカタチが動き出しています。



加藤 香洋
福島県立川俣高等学校 校長



川俣町長と『魅力伝え隊』メンバーで懇談 - 地域の魅力について語り合いました！

数字で振り返る地域みらい留学

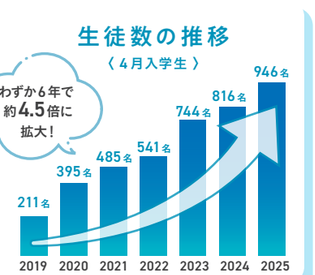
累計留学生数

4,000人突破



※2019年～2025年の累計

生徒数の推移（4月入学生）



参画校数の推移

受入れ校数も
当初の参画校数
34校から169校へと
5倍以上に拡大！

35道府県 169校

地域みらい留学のその先に ～生徒たちの進路実績～

進路も、学びも、自分で選ぶ時代へ。

総合型・推薦型入試が主流になりつつあるいま、地域で過ごした3年間の経験が、自己表現力や探究力として評価され、進学先の可能性を広げています。

2024年度進路実績校リスト（抜粋）

■ 国公立大学　筑波大学／国際教養大学／山形大学／高知大学／弘前大学／叡啓大学
北九州市立大学／広島県立大学／長岡造形大学

■ 私立大学　慶應義塾大学／上智大学／明治大学／立教大学／立命館大学
APU（立命館アジア太平洋大学）／國學院大學／藤田医科大学／甲南大学

地域での経験を活かして、専門学校や地元企業への就職、自分探しの旅に出た卒業生もいます。「自分らしい進路」を地域みらい留学は応援しています。

Cross Talk

留学生との対談



これからもずっと、『自分を受け入れてくれる』場所

～選んだ故郷で得た新たな価値観～

尾田　洋平 × 掃部 暁里 × 川瀬 ありさ

尾田：地域・教育魅力化プラットフォーム 専務理事　掃部：卒業生（現在：日本大学芸術学部）　川瀬：卒業生（現在：東京大学文科三類）

将来やりたいことが見つからず、偏差値を基準に進学を決める中高生は少なくありません。北海道礼文高校を卒業し現在は日本大学芸術学部で学ぶ掃部暁里（かもん・あさと）さんと、島根県立津和野高校から東京大学文科三類に進んだ川瀬ありさ（かわせ・ありさ）さんも、当時は「これがしたい」と思えるものに出会えず焦っていました。しかし、地域みらい留学を経た今、納得した進路を歩んでいます。

そんな二人が地域みらい留学を選んだ理由や3年間で得た気づきについて、地域・教育魅力化プラットフォーム専務理事の尾田洋平と語り合いました。

〈 2025年6月20日実施 〉

尾田洋平専務理事（以下、尾田）： 親元を離れ知らない土地でゼロから関係を築くことは勇気が必要だったと思います。地域みらい留学をしようと思った理由を教えてください。

掃部暁里さん（以下、掃部）： 僕は中学2年生の秋から学校に行けなくなりました。何か理由があったわけではなく、パタっと身体が動かなくなって、引きこもって。地元で進学できる高校が限られていた時、偶然「地域みらい留学」の説明会に立ち寄ったのがきっかけです。

川瀬ありささん（以下、川瀬）： 私は都内の中高一貫校にいて、大学受験が当たり前で、模試の結果に一喜一憂の日々でした。そんな高校生活に疑問を感じながらも、やりたいことが見つからずに焦っていた時、ネットで「地域みらい留学」の存在を知りました。

尾田： 二人が受験した頃は参画校も少なかったと思いますが、どのように選んだのですか？

掃部： 礼文高校の校長先生と話して、**「この先生なら安心だ」と直感**しました。留学生受け入れがまだだったので、「1期生として何でもできる」というワクワク感もありました。

川瀬： 私が津和野高校を選んだのは、留学生と高校や地域をつなぐコーディネーターの方や卒業生が多くいたことでした。**何かをしたいと思った際に基盤がある環境**だと思ったからです。

尾田： ご両親の反応はどうでしたか？

川瀬： 最初は理解してもらえず、「大学で好きなことを探せばいいのでは」と説得されました。でも、受験へのモチベーションをあと2年も保つ自信がなくて。繰り返し話し合い、最後は母が「自分で決めたことなら」と後押しをしてくれました。

掃部： 僕も母は後押ししてくれたのですが、父は息子の成長を近くで見たいとの思いと、偏差値の高い高校に行って、大学受験して…という"順当"な道から外れるのが心配で、最後まで渋っていました。でも、**卒業後に成長した姿を見て「よかったね」と言葉**をかけてくれました。



掃部 暁里 さん

地域で気づいた、「自分が欲していたこと」

尾田： 実際に3年間過ごして何が印象的でしたか？

川瀬： 「これが好き」を持ち、自分軸で生きている子が多くいたことです。**問答無用で勉強を頑張らなきゃいけないという観念が覆され、楽に**なりました。先生や地域の大人たちは皆、「興味あるなら一緒にやってみる？」と過干渉ではない距離感が心地よかったです。

掃部： 放送部に入部し、約2千人の島民に午後5時のお知らせや、学校の活動紹介などをラジオ放送でアナウンスしていました。外を歩いていたら、**「あなた掃部くん？」とか、「ファンクラブあるのよ」って声をかけられて**。真偽はわからないんですが（笑）。初めて第三者から評価をもらえたのが嬉しかったですね。

尾田： そういう高校生活を送るうちに、自分の軸は定まっていきましたか？

川瀬： 部活動や探究学習を通して、**「対話」というキーワードが自分の中で生まれました**。人の意見は質や量に関係なく平等で、誰かのふとした意見が、相手に影響を与えることもあると感じたんです。

尾田： 相手の価値観を知ったり、自分の思考が引き出されたりすることで、お互いの可能性を広げられるのでは、と思ったんですね。

川瀬： それを欲していたのだと思います。だからこそ気づけたのかもしれません。

尾田： そうした「対話」や個人の存在価値という点で言うと、今、特に都市部では「自分の替わり」がきくことが多いですが、地域ではどう感じますか？

掃部： 礼文高校の体育祭では、欠席者が出たチームは不利になります（笑）。やる気がない子を奮い立たせないといけない。そうした個々の存在が際立つのは、少人数の環境だからこそだと思います。

変わったのは、休日の過ごし方とやりたいこと軸の進路選択

尾田： 不便だったことはありますか？

掃部： 冬場は1.3mほど積雪するのですが、下校時にバスが止まってしまい。吹雪の中、7kmを歩いて帰った時、自然に左右される現実を痛感しました。

川瀬： 下宿から最寄りのコンビニまで6kmほどありました。でも、そうした不便さの中で、休日の過ごし方が変わったのが一番大きいですね。**東京では「新宿に行こう」だったのが「山登りに行こう」**になりました。蕎麦打ちやイカのさばき方も教わりました。

掃部： 同じです！「獲れたてのイカが食べたいな～」と呟くと、釣りが趣味の地元の人に「うちの（船に）乗る？」と誘われて。僕も見よう見まねで魚がさばけるようになりました。

尾田： 進路はどう考えるようになりましたか？

川瀬： 社会教育を学びたいと思い、学べる環境を調べた結果、東京大学だと思い、推薦入試を受けました。**偏差値ではなく「やりたいこと基準」で選べたのが大きい**です。

掃部： 「演劇って面白そう」で日本大学芸術学部に入りました。役者という先がわからない仕事を選べるのも、礼文島という第二の故郷があるからです。**濃密な3年間で築かれた絆は、生まれ育った地元にはない**ものです。

川瀬： わかります！ 仮に大学を中退しても、**「そうなんだ」と受け入れてくれる場所があることは大きい**です。繋がりが浅いと「○○の川瀬さん」と肩書きで見られがちですが、繋がりが深ければ、理解しづらい道を選んでも「あの人なりの生き方」として見守ってもらえるなと感じます。



川瀬 ありさ さん

これから挑戦する人へ

尾田： 地域みらい留学を検討している中学生にメッセージをお願いします。

掃部： 便利さを手放すことで得られるものの大きさをぜひ体験してほしいです。**高校3年間の経験は今の自分の武器**であり、自信につながっています。一歩を踏み出した分の価値はあると感じています。

川瀬： 「自分は人を受け入れられない」と思う人ほど、行ってほしいと思います。ただし、**意欲を持って行くことが大切です**。与えてもらえると思うと何も成し遂げられません。積極的に関われば、地域の方々も温かく迎えてくれます。

「夕張だからこそ」市長からの地域みらい留学へのメッセージ

夕張市では、令和5年6月から夕張高校の全国募集を開始し、令和6年4月に初めて市外からの生徒の入学と公設寮への入寮となり、令和7年4月には市外からの生徒が更に増えました。市外からの生徒の受け入れは、夕張高校の入学者を増加させるとともに、地元から進学する生徒にとっても新しい人間関係を築くことができる非常に良い機会であると捉えております。

今後も地域と協力しながら、夕張だからこそ学べることを充実させたいと考えております。



夕張市長
厚谷　司氏

国際事業

海外からも日本の地方の高校に留学する生徒を受け入れ、地元の生徒、全国各地から来る生徒たちと一緒に学び合えるようなグローカルな教育環境づくりを目指す、その取り組みの第一歩を踏み出しました。

今後、関係する自治体および高校と連携し、多様な文化的背景を持つ生徒が共に学べる受け入れ体制の整備を進めています。

この取り組みは、地元の生徒にとっても、異文化への適応力やリーダーシップなどの能力向上、国際的関心の喚起といった教育効果が期待されます。

海外からの留学生との交流を通じて、相互理解と成長の機会を提供し、持続可能な「越境」の教育環境の構築に注力してまいります。




おためし地域留学

地域みらい留学の参画校・地域への関心を高め、進学検討の機会にもつながる「おためし地域留学」の輪も広がっています。おためし地域留学は、中学生が地域の学びや生活を体験できる短期プログラムです。2025年度には、15の自治体でおためし地域留学が実施される予定で、100人程度の中学生の参加を見込んでいます。

おためし地域留学を通して地域の学びや人の魅力を五感で体感することで、中学生が自らの意志で地域みらい留学を選択する「はじめの一歩」となるきっかけづくりに取り組んでいます。

今後も参加者や自治体、学校の声を聞きながらプログラム改善を継続的に実施し、より良い体験機会の提供に努めていきます。






みらい共創事業

地域みらい留学参画高校の生徒たちが学校や地域の枠を越えて学びあえる新たな教育プラットフォームの開発・共創を行っています。

パーソルホールディングスをはじめとした企業や大学と連携し、オンラインとリアルの組み合わせで学ぶ未来型のキャリア教育プログラム「地域みらいキャリア」の提供や、他の地域みらい留学参画校等へ数日間から1年間の留学機会の創出などを進めています。

市町村ネットワーク

全国の44自治体（42校）によるネットワークで、第2世代交付金「多様な越境機会の創出による地域課題解決型人財育成事業」に申請し、2025年4月に採択されました。

海外・地域・都市部の高校との越境的な学びを通じて、高校生に多様な価値観に触れる機会を提供。地域連携により弱みを補完し強みに変える取り組みを推進。

地域みらい留学の質とスケールの向上を図り、産学官民連携による次世代育成の基盤づくりを進めています。

都道府県伴走・しまね

各県の教育委員会に伴走し、県立高校の魅力化の推進支援に取り組んでいます。2025年度は主に全国9つの県教委と連携し、高校を核とした地域活性化を後押しします。

島根県においては、島根の教育環境の充実に向けた各種施策の検討・実施を行っています。地元企業や団体とのプログラム「しまね未来共創チャレンジ」（“みらチャレ”）をはじめ、持続可能な地域教育モデルの構築に取り組んでいます。

多くの皆さまのご支援とご協力により、地域みらい留学は大きな流れになりはじめています。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

通学圏内という枠を越え全国各地から、偏差値軸ではなく自分軸で選べる地域みらい留学を、すべての子どもたちの選択肢へ。そして、生まれた環境は誰も選べなくても、学ぶ環境は誰もが選べる時代を、皆さまと共に創りたいと思います。

今年は、地域みらい留学が「当たり前の選択肢」となるよう、年間1000人を越える地域みらい留学生の誕生を目指します。また、海外からの地域みらい留学も開始し、地域みらい留学を世界からも選ばれる「あこがれの選択肢」にしていきたいと思います。

皆さまからのご支援やご助言を頂きながら、この挑戦を前進させていきます。

引き続きご指導・ご協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。



一般財団法人
地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事
岩本　悠

パーソルホールディングス株式会社

代表メッセージ

パーソルグループは「はたらいて、笑おう。」というグループビジョンのもと、総合人材サービス企業として “はたらくWell-being” の実現を目指しています。

地域・教育魅力化プラットフォームが目指す「意志ある若者にあふれる持続可能な地域・社会をつくる」というビジョンの実現を後押しするべく、2023年からビジョンパートナーとしてともに活動してきました。

これまでに双方の知恵を絞りながら、若者に向けて様々な機会を創出することができ、若者の意志決定の支援に携われたことをうれしく思います。今後、より多くの若者が自分らしい選択ができる世の中をともにつくっていきたいと考えております。



PERSOL

パーソルホールディングス株式会社
代表取締役社長 CEO
和田 孝雄



日本たばこ産業（JT）株式会社
取締役会長
岩井 睦雄



株式会社アンドパッド
取締役CFO
荻野 泰弘



TOKYO BIG HOUSE株式会社
代表取締役
菊田 寛康



株式会社SIGNATE 社外取締役
グロービング株式会社 社外取締役
合同会社山城屋 代表社員
高橋 広敏



株式会社フューチャー・デザイン・ラボ
代表取締役会長
竹原 啓二



一般財団法人
100万人のクラシックライブ
代表理事
UWC ISAK JAPAN 理事
蓑田 秀策



アクサ生命保険株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
安渕 聖司



株式会社ZOZO
取締役副社長兼 CFO
柳澤 孝旨



株式会社プログリット
取締役副社長
山碕 峻太郎

ビジョンパートナーの皆さんが思い描かれている未来について
お聞きした記事は、こちらからご覧いただけます。

※50音順に掲載　※2025年3月時点

2024年度 活動計算書

単位（円）

Ⅰ 経常収益		
	1. 受取寄付金	153,305,919
	2. 受取助成金等	29,081,642
	3. 事業収益	361,670,672
	4. その他収益	818,751
経常収益計		544,876,984
Ⅱ 経常費用		
	1. 事業費	341,431,565
	2. 管理費	154,973,602
経常費用計		496,405,167
当期経常増減額		48,471,817
Ⅲ 経常外費用		
	経常外費用計	1,853,647
	法人税、住民税及び事業税	163,663
当期正味財産増減額		**46,454,507**

2024年度 貸借対照表

単位（円）

Ⅰ 資産の部		
	1. 流動資産	236,936,818
	2. 固定資産	34,470,150
資産合計		271,406,968
Ⅱ 負債の部		
	1. 流動負債	63,218,151
	2. 固定負債	10,584,000
負債合計		73,802,151
Ⅲ 正味財産の部		
正味財産合計		197,604,817
負債及び正味財産合計		**271,406,968**

［理事 / 監事］

理事・会長　水谷　智之（株式会社リクルートキャリア元代表取締役）
代表理事　岩本　悠（文部科学省 中央教育審議会委員）
専務理事　尾田　洋平
理事　今村　久美（認定NPO法人カタリバ代表理事）
理事　高槻　大輔（ソーシャル・イノベーション・パートナーズ代表理事）
理事　大野　佳祐（島根県立隠岐島前高校 学校経営補佐官
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団 理事
AMAホールディングス株式会社 代表取締役）
監事　古里　圭史（公認会計士・税理士）

［評議員］

太田　直樹（前総務省政策アドバイザー）
鈴木　寛（元文部科学大臣補佐官）
大江　和彦（海士町長）
船橋　力（トビタテ！留学JAPAN エグゼクティブアドバイザー）



理事・会長 水谷 智之



専務理事 尾田 洋平



理事 今村 久美



理事 高槻 大輔



理事 大野 佳祐



監事 古里 圭史

第９期

財務諸表及び財産目録

一般財団法人

地域・教育魅力化プラットフォーム

自　令和６年４月　１日

至　令和７年３月３１日

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム

貸借対照表

2025年3月31日

(単位：円)

科　　目	金　　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	151,284,183		
売掛金	81,413,063		
貯蔵品	315,625		
立替金	122,032		
前払費用	3,441,915		
未収収益	360,000		
流動資産合計		**236,936,818**	
2. 固定資産			
（1）有形固定資産			
建物	11,518,787		
建物付属設備	6,733,446		
工具器具備品	996,861		
有形固定資産計	**19,249,094**		
（2）無形固定資産			
ソフトウェア	10,113,080		
ソフトウェア仮勘定	1,109,075		
無形固定資産計	**11,222,155**		
（3）投資その他の資産			
出資金	5,000		
敷金	600,000		
差入保証金	2,400,000		
長期前払費用	993,901		
投資その他の資産計	**3,998,901**		
固定資産合計		**34,470,150**	
資産合計			**271,406,968**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	53,019,422		
未払費用	594,868		
未払法人税等	162,000		
未払消費税等	7,123,800		
預り金	2,318,061		
仮受金			
流動負債合計		**63,218,151**	
2. 固定負債			
長期借入金	10,584,000		
固定負債合計		**10,584,000**	
負債合計			**73,802,151**
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		**151,150,310**	
当期正味財産増減額		**46,454,507**	
正味財産合計			**197,604,817**
負債及び正味財産合計			**271,406,968**

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム

活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科　　目	金額	
Ⅰ 経常収益		
1　受取寄付金	153,305,919	
2　受取助成金等	29,081,642	
3．事業収益	361,670,672	
4．その他収益		
受取利息	84,549	
受取配当金	80	
雑収入	734,122	
経常収益計	544,876,984	544,876,984
Ⅱ 経常費用		
1．事業費		
（1）人件費		
役員報酬	9,307,980	
給料手当	110,814,237	
人材派遣費	2,139,324	
出向負担金	3,600,000	
雑給	494,467	
法定福利費	17,226,306	
通勤手当	976,104	
福利厚生費	2,775	
人件費計	144,561,193	144,561,193
（2）その他経費		
外注費	85,994,695	
荷造運賃	2,889,609	
広告宣伝費	47,714,241	
交際費	390,603	
会議費	12,473,444	
旅費交通費	34,252,553	
通信費	3,681,592	
消耗品費	2,096,166	
新聞図書費	126,126	
諸会費	60,550	
支払手数料	567,227	
地代家賃	960,000	
賃借料	532,680	
保険料	150,334	
租税公課	177,890	
人材紹介手数料	317,623	
減価償却費	3,058,599	
研修費	10,000	
支払助成金	1,416,440	
その他経費計	196,870,372	196,870,372
事業費計	341,431,565	341,431,565

(単位：円)

科　目	金額	
2. 管理費		
（1）人件費		
役員報酬	8,962,008	
給料手当	19,522,919	
賞与	9,419,046	
雑給	75,400	
法定福利費	5,560,104	
通勤手当	219,801	
福利厚生費	1,174,131	
人件費計	**44,933,409**	**44,933,409**
（2）その他経費		
外注費	36,683,917	
荷造運賃	2,283,053	
広告宣伝費	4,035,967	
交際費	1,214,291	
会議費	4,495,875	
旅費交通費	10,430,749	
通信費	5,756,169	
消耗品費	2,643,107	
修繕費	3,300	
水道光熱費	866,441	
新聞図書費	250,958	
諸会費	347,749	
支払手数料	674,684	
地代家賃	4,311,000	
賃借料	35,170	
保険料	16,144	
租税公課	17,628,223	
支払報酬料	2,036,394	
人材紹介手数料	5,265,838	
減価償却費	1,398,467	
研修費	1,329,466	
支払利息	206,990	
返礼品調達費	8,126,241	
その他経費計	**110,040,193**	**110,040,193**
管理費計	**154,973,602**	**154,973,602**
経常費用計	**496,405,167**	**496,405,167**
当期経常増減額		**48,471,817**
Ⅲ 経常外費用		
1. 固定資産除却損	1,853,647	
経常外費用計	**1,853,647**	**1,853,647**
税引前当期正味財産増減額		**46,618,170**
法人税、住民税及び事業税		**163,663**
当期正味財産増減額		**46,454,507**
前期繰越正味財産額		**151,150,310**
次期繰越正味財産額		**197,604,817**